

地図・掛図をもっと身近に！

文部科学省初等中等教育局教科調査官
国立教育政策研究所教育課程調査官
安野 功



地図・掛図の固有のよさ

教員時代、わたくしは地図・掛図の愛用者であった。授業にパソコンなど考えられない時代。当然といえば当然だが、当時OHPやVTRなど視聴覚教材は既に普及していた。それでも地図・掛図は欠かせなかった。地図・掛図には、固有のよさがあるからだ。

家庭の外国製品を調べてカード化し、床に広げた世界地図に貼る。そうした作業的学習をとおして、国民生活と外国との結び付きが見えてくる。世界の国々に対する関心も芽生える。授業後その地図を教室に常掲。文化面で結び付く国を調べ、付け足していく。このような学習活動と一体化した活用を工夫できるところに、地図・掛図のよさがある。それ以上に魅力的なのは手軽さだ。必要な期間、教室に掲示できるというよさも見逃せない。これらのよさは、視聴覚教材にもなければ、パソコンにもない。地図・掛図の特徴であり、固有のよさなのである。

地図・資料活用は不易・流行の課題

ニュースで話題となった国が世界のどこにあるのかわからない。都道府県の位置を地図の上で指摘できない等等。地図離れを象徴する話題が後を絶たない。世界のおもな国々の名称と位置にかかわる知識はグローバル化時代に欠かせない教養だとの指摘も見られる。いまや地図活用は、流行の課題である。

しかし、地図活用は、資料活用とともに、不易の課題でもある。“調べる”が曖昧な社会科など、あり得ないからだ。けれども、この社会科授業の基礎・基本ともいべき地図や資料活用に問題点が見られる。平成15年度教育課程実施状況調査では、分布図や統計資料の活用が課題として指摘されているのだ。

“消耗品感覚”で、もっと身近に！

これらの課題にどのように対応していったらよいのか。まずは、日々の社会科授業で、もっと手軽に、地図・掛図を使うこと。統計資料も含めてである。

偶然にも、この夏、鳥取県教育センターで、歴史掛図を活用した演習を実施した。4名程で1グループを組み、まずは子どもになったつもりで掛図を読み込む。次に、その掛図を中心資料とし、どんな指導が効果的かを考え、指導プランを作成した。参加者が、満足げに話してくれた。「2学期の学年会で、ぜひ今日の演習を取り入れたい」と。

地図・掛図を、消耗品感覚で、もっと身近に活用する。それがわたくしの提案である。

系統的な地図の指導で地理的学力の向上を

全国小学校社会科研究協議会会長 松田博康
東京都中央区立佃島小学校長

学力テストでわかった 地理的学力の低下

-地図に関連して、地理的学力の現状について教えてください。

地理的な学力が非常に落ちています。今回の東京都で行った4教科、国語・社会・理科・算数の学力テストでも、5年生対象ですから、5年生の2学期くらいまでの内容なんですけど、その中でも地理が非常に落ちているんです。

-それは、ほかの教科ではそうでもないのに、地理だけが目立つということですか？

社会科の平均正答率は80%台なんです。ところが地理に関わる問題では正答率が60%台になっていまして、これは非常に低いんですよ。

テストでは、地図の読み方、つまり読図能力を見る問題が出ています。また資料活用能力、2つの資料を比べてそこから何が読みとれるかを見る、内容的に地理に関わっている問題が出ています。

テストの結果を分析すると児童が空間を認知する能力が劣っていることがわかります。そこから導かれる今後の指導方針を、以下のようにまとめました。

- 社会科、生活科のみならず学校生活全体の中で空間認知能力を育てる工夫をする。
- 自分の住んでいる地域と社会的な事実・事象のかかわりに目を向けさせる。
- 体験したことを地図や資料で確かめる習慣を付ける。
- 地図を教室などで常掲して児童に直接働きかける工夫をする。

-テストの各問題で問われている能力を伸ばすには、どうしたらよいのでしょうか。

まず「簡単な地図の読み取り」の問いでは、読図能力を伸ばすために、地域の様子を地図・白地図にまとめる作業や、教科用地図の活用、地図に慣れ親しむ機会を増やしていくこと、などがポイントです。

また「東京都に隣接する県名」を問う問題では、地域に関連する地名が問われていますから、校外学習で地図を持たせたり、位置の確認などを意識的に指導するようにすべきです。

さらに「阪神工業地帯の位置」の問題では、学習する地域の位置を正確に理解するために、地名や工業地帯はその都度地図で確かめるようにすること、常掲の掛地図を用意するなどして、児童が日常的に地図に触れられるようにすることが求められます。

系統立った地図指導が 難しくなっている

-社会科の授業時間数が少なくなった影響はありますか。

時間に追われて、習った事柄を地図で一つ一つ確かめなくてはいけないのに、そういう細かい時間がとれないのが現状です。大事なことなんですけどね。

それから指導する先生の側で、地図の使い方がよくわかっていないと言えるかもしれない。地図は系統立てて教えていく必要があるのです。まず方位で言うと、4方位、8方位、地図記号、それについてはその前の段階の絵地図できちんとやっておかないといけません。絵から記号化していくと。

私は臨地での授業で「地図から何が読みとれるか」という、体験したことを地図で確かめる内容のものをやりました。それは等高線と土地利用の関係、自然の川の流れ方から、道路や鉄道の経路関係の確認、さらに人が多く住んでる所は道路や鉄道に沿っているかとか。そういう風に段階的にやっていくべきですね。

特に3年生で学校の周りについて学習するときは、絵地図・白地図を用いて、地図記号を使ったきめ細かい指導が欠かせません。それが地図指導の系統性だと思います。

地図の指導に関しては、文科省の指導要領でも何年生でこういうものと示されていますが、それを少し系統立ててやっていきたいということで、本校で研究しているところです。その基になっているのがイングランドのナショナルカリキュラムで、地図指導の系統性がカリキュラムの中でかなり細かく提示されています。

-系統立った地図指導は難しい状況になっているんですか？

そうです。どうしても人々の生活とのかかわりが学習の中心になり、地図が疎かになってしまう。指導要領に示されている「地域の特色ある産業」などでも、この地域では商店が多いのですが、いつも行くところが魚屋・八百屋からスーパーマーケットになってしまった。スーパーに行けばみんな揃ってしまうから。「スーパーでは売るためにどういう工夫をしているのか」などと、学習がそちらの方向に行ってしまう。

先生方に気付いてほしい 地図を使った指導の重要性

そういえば、最近のスーパーでは食料品の産地名を細かく表示するようになりましたね。他地域とのつながりを考える学習で、一つ一つその産地を地図で確かめていくことが行われます。「スイカの産地はどこ?」「山形だ!」「山形の位置は?」というように。以前は箱を見ないと詳しい産地はわからなかったのが、店頭が表示でわかるようになった。これからはそういう指導が大事になっていくと思いますね。

魚は外国産のものが多いですから、産地の確認には世界地図もないと困る。そういった意味からも4年生からではなく、3年生から地図帳は必要じゃないかと思っています。

地域の学習をするにしても、わたしたちの生活が小さな地域だけの問題では済まなくなっているんですよ。ほかののかわりが広がってきている。昔は流通網が狭かったから、調べるのは近郊まででよかった。いまはモノが外国から、遠い所から運ばれて来ますから。

3年生では地域学習をするときに少なくとも学区、あるいは区市町村単位の大きな地図が必要です。地図は大きくないとわかりづらい。一つ一つ確かめながら進めていくことが必要ですから。方位、縮尺、それから地図記号。中学年ではこれらを含んだ大型の地図がどうしても必要ですね。ですから本校でも去年、全教図さんに大型の地域地図をつくっていただきました。

大型の地図が子どもと勉強するときには絶対必要だと思いますね。先生も同じ資料でやらないと子どもはわかりません。

地形と土地利用の関係が わかる地図がほしい

たとえば、こういった(地図帳の鳥瞰図を示しながら)地形の上にオーバーレイ・シートなどをかけて、土地利用とどういつながりがあるかわかるもの。鉄道のシート、道路のシート、市街地のシートなどと重ね合わせていくと、地形との関係がわかるのではないかと。そういう地図教材があればいいですね。それをやるのは3年生でしょう。するとエリアが区市町村別になる。中央区の場合なら、川沿いや運河沿いに工場があるとか商店があるとかが一目瞭然になる。

一番大事なものは地形とのかわりを理解することです。昔OHP教材で、玉川上水の経路を示したものを作ってもらったことがあって、なぜ玉川上水はここを通過しているのかがひと目でわかりました。まさに武蔵野台地の高い所を通過しているんです。



インタビューー：ソフト教材委員会

現場の先生に聞いてみた！

- 大型地図を使った授業の実際 -

-実際に大型の地図を使うとしたらどういう場面で使うことが多いんでしょうか？

子どもたちが地図帳なり白地図を持っているときに、こちらが小さい地図ですと情報を共有できないんですよ。「ここだよ」と示してもよく伝わらない。大型の地図があると、学校からこうたどって行って「今日行ったのはここだよね、確かめてごらん」と言うと子どもたちは手元の同じ地図で確かめられる。小さい地図で示しても確認しづらい。すると指導の詰めが甘くなるんです。考えを発表するときも、前へ出てきて「ここはね、あそこはね」とハッキリと指して行こうがいい。地図に限らず大型の資料の特長ですね。

-書き込みのできる「機能付大型地図」(*)というのがあるんですが

普通は書き込みなんかできないから、印としてマグネットなどを置くんですね。それが書いて消せるものがあればより使いやすいと思います。やっぱり、地図を使った授業でも一箇所だけ「ここが東京だよ」と指さすだけでおしまいではなくて、他地域との関連で「いまはここに住んでいて、学習している枕崎市はここだね、そしてここは…」というようにいくつかの場所を関連付けて考えることが多くなります。そのとき、どうし

ても指をさすだけで終わってしまうと子どもたちの頭に残らないので、矢印の付箋紙といったものを使って貼ったりみなさん工夫されている。それに比べるとじかに書き込んで、消せるというのはいいですね。

個人的な話をしますと、百円ショップの地図を買ってきて、授業で書き込んで使い終わったら捨てるということをしているので、書き込みのできる地図というのは魅力です。

-パソコンで電子地図を使うということはないですか？

まだないですね。地図ソフトを使ってパソコン上で絵地図をつくったりというものはあるんですが、あまり社会科の実践ではないです。地図は自分の手で描くということに意義がありますから難しいですね。パソコンでやるとなんとなくわかった気になるけれど、たとえば学区の地図をパソコンでつくるより、自分の手で描いたり塗ったりしていく方が時間はかかるけれど、より理解が深まる。もちろんこれから使ってみてメリット・デメリットを探っていく必要はあると思いますけど。

ただ提示用にはいいかもしれないですね。プロジェクター等を使って、必要な地域だけを大きく投影できますから。

(*) 機能付大型地図については次ページ参照。

機能付大型地図



大型地図には、世界・日本の地勢全図、行政地図、県別、州別など、じつに様々な種類のものがありますが、こうしたソフト面のバリエーションだけでなく、使い勝手をよくするという目的から、多様な大きさのものや、自動巻き上げ機構を装備させたもの、マーカーペンでの書き消しが自由にできるものなど、ハード面にもいろいろな特色をもつものが出てきました。

ここに紹介する「機能付大型地図」は、1本の軸の中に世界・日本の地勢図、白地図といった複数の基本的な地図紙面が自動巻き上げ機構で瞬時に切り換えられる状態で収められており、さらに各紙面にはマーカーペンでの書き消しが自由にできるなどといった、特に、ハード面に工夫のある地図です。

このようにハード面に工夫が施された使い勝手のよい地図は、これまでのように大型軸地図を単に指導のみに用いるのではなく、児童・生徒に直接活用させ、調べたことをまとめたり発表したりする際の道具として用いるといった使い方にも対応でき、とても便利です。

■予算該当項目

小学校（総合的な学習の時間・社会）		
機能別分類	品目類別	例示品名
発表・表示用教材	地図の類	地図（英語版世界 など）など
発表・表示用教材	地図の類	地図、地図黒板、地域学習ボード、地域航空写真など
中学校（総合的な学習の時間・社会）		
機能別分類	品目類別	例示品名
発表・表示用教材	地図の類	地図（英語版世界、環境など）など
発表・表示用教材	地図の類	地図、地図黒板、地域学習ボード、地域航空写真など

世界・日本の地勢と白地図が1本に

●世界地図・日本地図の同時使用

小・中学校を問わず、今後は世界の各国と日本を比較したり、その関連やつながりを学んだりする機会が多くなってきます。そのようなときには、世界地図・日本地図双方が1本の軸に収められており、それらをすばやく切り換えて提示できる機能の付いた大型地図があると便利です。

●児童・生徒が直接手を加えられる地図

これまでのように、大型地図を単に指導のみに用いるのではなく、児童・生徒に直接活用させ、調べたことをまとめたり発表したりする際の道具として用いることも大型地図の新しい利用法です。その際には、マーカーペンなどの自由な書き消しに対応できる加工が施されたシンプルな白地図が、地勢図などと共に収められていると役立ちます。また、小型の国旗シールなど、地図に貼れるシールがセットされているものは、白地図をより有効に活用するアイデアを広げてくれます。

●教師にも…



●児童・生徒にも…



書き消し自在の地図はとても便利！